



みちくさ

2016. 9. 12 No. 30

署訓

先日、「秋の交通安全週間」の会議で仙台中央署に出かけた際、会議室の正面上部に何気なく目をやると、掲示されている署訓を見つけました。

凡事徹底 協調連携 迅速果断

これを見つけたとき、思わずうなっていました。この頃自分の考えていたことを、的確に表してくれる4文字の熟語が並んでいたからです。警察官と教員という全く違う職種ではありますが、人材育成という点では似ているところもあります。

凡事徹底とは、当たり前のことを徹底的に行うということです。私たち教員も、日常的に変わらず指導していることがたくさんあります。挨拶とか行儀とか、当たり前のことが普通にできるように、子どもたちには繰り返し教えます。協調と連携は同じような意味の言葉が並びます。最近国際社会に対しても使われる機会が増えている言葉ですね。違った個性が集まる学校や教室が豊かになるためには絶対欠かせない言葉だと思います。迅速果断は、思いきりよく、素早く判断することという意味になります。こちらについては、瞬時に物事を判断し行動に移さなければならない警察官ならではの言葉ですが、学校でも強く求められていることかもしれません。特に教師には、よりよい指導をするためにも必要な資質の一つでしょう。

こうしてみると、警察官に対する署訓ですが、そのまま教員にも当てはまるなと思いました。ちなみに、今年度の本校のめざす教師の姿の中に、このような文言があります。

- ・基礎・基本の徹底を図ります
- ・いじめや不登校、問題行動に迅速に対応します

やはり似ているところがありますね。

デザインの秀逸さ

駐車場に駐まっていたポルシェをしみじみと眺める機会がありました。言わずと知れたドイツの高級車ですが、改めて近くから見ていると、その流れるような板金の巧みさに、ため息が出てきました（絶対買えないというため息もありますが）。しかし、ものづくりでは日本も負けていないと思います。車の中身に関しては、ドイツに引けをとらない技術を確立しています。でも外観、つまりデザインは？と言われると、うーん、日本車って画一的かな思ってしまう。

はじめてアップルから携帯音楽プレーヤーが発表されたとき、そのデザインに魅了され、思わず衝動買いをしてしまいました。表側はプラスチック製で、クリックホイールと呼ばれるくるくる回るスイッチがついていました。裏側は、金属加工なのですが、そのなめらかさに驚きました。実はこのクリックホイールも裏の金属加工も、made in Japanであることが後で分かりました。匠の技というのは、もともと日本人の得意とするところなのでしょう。でもそれを表現する上で、優れた

デザインが要なのかもしれません。私たちは、視覚から情報を得ることが圧倒的に多いです。身につけてみたいとか、所有していたら幸せな気分になれるとか、そういう次元で物事を考えると、デザインというものは大きなポイントになります。アニメなどではクールジャパンなどと言われますが、その名の通り、クールなデザインの登場を待ちわびている一人です。

いわく付きでようやく決まった東京オリンピックのエンブレムですが、そもそも一番はじめに出てきた招致用に造られた桜のエンブレムが一番よかったと思うのは私だけでしょうか。あれは当時の美大生が制作したものとか。デザインの分野でも、次代を担う人材は確実に育ってきているのでしょね。いつか、ドイツ人をうならせるような、流線型のボディをもった自動車が登場してくることを夢見ています。

避難所開設準備

今年は災害の多い年だと感じます。春の熊本地震から始まり、東北や北海道の集中豪雨と、今まであまり被害のなかった地域が受難に遭っているようです。先日の岩泉町で濁流にのみ込まれ、尊い命を失った人たちのご冥福を祈るばかりです。収穫の時期を迎えた北海道のジャガイモやタマネギなどがやられました。これから野菜の高騰を生んでしまうのかと心配なところですよ。

さて、片平でも8月の台風から数えて、合計4度の避難所設置準備のため、施設管理者として参集をかけられました。今回の報道でも明らかになりましたが、普段あまり使っていない用語が飛び交います。「避難準備」「避難勧告」「避難指示」というように…。でもよく考えると、準備は避難するために行動を起こしなさいということです。準備で止まって安心してはいけないということです。勧告→指示になると、意味合いが強くなりますね。

今回は4度の準備中、避難所開設は1度だけ、そして避難者は2名のみでした。でも昨年の9.11の時には、100名を超える避難者が体育館に避難しました。夜間に災害が起きたとき、校長や教頭は駆けつけるのに時間がかかります。そのような時のために、地域に住んでいる市職員が、指定動員として体育館を開け、避難所担当課の職員が来るまで待機します。その後、学校職員や避難所担当課職員が連携して、避難所開設と運営に当たることになります。

もちろん、東日本大震災や集中豪雨による河川の氾濫など、起きないことに越したことはないのですが、万が一の時には、小学校が避難所になることを覚えておいてください。

さて、昨年もお知らせいたしましたが、片平地区災害に強いまちづくり委員会が主催して、片平地区の総合防災訓練を行います。10月30日に評定河原テニスコート脇の広場が会場になります。昨年是一回目で、周知のための時間をとれなかったもので、特に子どもたちの参加が少なく、残念に思いました。片平地区といっても、内容は区単位で行う総合防災訓練と変わらない規模です。子どもたちが学べる場もありますので、どうぞご家族揃っての参加をお願いします。

詳細については、後日学校からおたよりでお知らせをいたします。

